

【社会福祉法人東京光の家 総括貸借対照表】

平成22年3月31日現在 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
流動資産	398,012	流動負債	88,954
現金預金	280,015	未払金	58,019
未収金	87,710	預り金	8,558
未立替金	406	経理区分間借入金	15,614
前払金	3,133	会計単位間借入金	6,761
経理区分間貸付金	15,614		
会計単位間貸付金	6,761		
商品・製品	3,150		
原材料	1,220		
固定資産	2,053,765	固定負債	121,101
基本財産	1,152,647	設備資金借入金	61,440
土地	6,330	退職給付引当金	59,661
建物	1,149,016	負債の部合計	210,055
その他の固定資産	901,118	純資産の部	
建物	5	基本金	418,832
機械及び装置	14,006	国庫補助金等特別積立金	484,762
車輛運搬具	606	その他の積立金	796,532
器具及び備品	28,577	移行時特別積立金	116,707
長期貸付金	600	人件費積立金	233,500
移行時特別積立預金	116,707	建設積立金	66,500
措置施設繰越特定預金	272,000	施設整備等積立金	271,860
人件費積立預金	83,500	その他の積立金	102,500
建設積立特定預金	66,500	工賃変動積立金	2,465
施設整備積立預金	149,860	設備整備等積立金	3,000
その他の積立特定預金	102,500	次期繰越活動収支差額	541,595
工賃変動積立預金	2,465	次期繰越活動収支差額	541,595
設備品等積立預金	3,000	(うち当期活動収支差額)	171,606
その他の固定資産	60,789	純資産の部 合計	2,241,723
資産の部 合計	2,451,778	負債及び純資産の部 合計	2,451,778

脚注：減価償却費の累計額 985,580千円
注記：固定資産の減価償却の方法…定額法

平成二二年度
社会福祉法人 東京光の家 事業報告

はじめに ～総括的報告～

いつの間にか、暑い、暑い、暑いという言葉が口の端にのぼる頃となりました。

日頃は、私ども東京光の家の視覚障害者福祉事業全般に対し、格別なるご厚情のもとご指導ご鞭撻ご支援を賜り心から厚く御礼申し上げます。

皆様方のご援助のお蔭もって事業全体も滞り無く取り運ばれ微力ながらも社会的責任を果たすことができました。又、各

事業体施設で生活する利用者たちも元気で明るく、一日一日を送り、諸訓練に励みながら、自立に向けて頑張っているところです。重ねて感謝申し上げます。

以下平成二二年度の事業状況のご報告をさせていただきます。

【社会福祉法人 東京光の家 総括資金収支計算書】

(自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
就労支援事業収入計	49,808
就労支援事業支出計	48,530
就労支援事業活動資金収支差額	1,278
経常活動及び福祉事業収入計	1,074,942
自立支援費等収入	521,077
利用料収入	2,107
措置費収入	191,383
私的契約利用料収入	57,052
補助事業等収入	7,005
経常経費補助金収入	248,196
寄付金収入	6,835
雑収入	31,618
借入金利補助金収入	1,000
受取利息配当金収入	2,666
会計単位間繰入金収入	1,500
経理区分間繰入金収入	4,500
経常活動及び福祉事業支出計	910,545
人件費支出	663,858
事務費支出	97,074
事業費支出	142,611
借入金利利息支出	1,000
経理区分間繰入金支出	4,500
会計単位間繰入金支出	1,500
経常活動福祉事業活動資金収支差額	164,397
施設整備等収入計(※賛助会寄付金含む)	28,867
施設整備等支出計	5,037
施設整備等資金収支差額	23,829
財務収入計	4,834
財務支出計	167,890
財務活動資金収支差額	△163,055
当期資金収支差額合計	26,449
当期末支払資金残高	304,688

【社会福祉法人 東京光の家 総括事業活動収支計算書】

(自)平成21年4月1日 (至)平成22年3月31日 (単位：千円)

科目	金額
就労支援事業活動収入計	49,808
就労支援事業活動支出計	45,156
就労支援事業活動収支差額	4,652
事業活動及び福祉事業活動収入計	1,084,521
自立支援費等収入	521,077
利用料収入	2,107
措置費収入	191,383
私的契約利用料収入	57,052
補助事業等収入	7,005
経常経費補助金収入	248,196
寄付金収入	6,835
雑収入	28,347
国庫補助金等特別積立金取崩額(事業)	22,516
事業活動及び福祉事業活動支出計	946,322
人件費支出	663,858
事務費支出	86,595
事業費支出	142,611
減価償却費	46,048
引当金繰入	7,207
事業活動及び福祉事業活動収支差額	138,199
事業活動外収入計	9,666
事業活動外支出計	7,000
事業活動外収支差額	2,666
経常収支差額	145,517
特別収入計(※賛助会寄付金含む)	28,867
特別支出計	2,778
特別収支差額	26,089
当期活動収支差額	171,606
前期繰越活動収支差額	521,855
当期末繰越活動収支差額	693,461
次期繰越活動収支差額	541,595

*賛助会寄付金額 17,971千円

以下各事業施設の活動状況等についてご報告いたします。

指定・障害者支援施設

光の家新生園

光の家新生園の利用者の多くは視覚障害に加え、他の障害を併せ持つことから社会経験に乏しく、精神面・行動面での発達の遅れが多く見られる。その障害特性に考慮した一人ひとりの支援計画を策定し、能力に応じた支援を行った。平成二一年度は本格的な自立支援法下の支援施設として、施設入所支援と生活介護を中心に短期入所も受入れ、これまで以上に幅広い事業を展開した。

一、利用者支援

平成二一年度は、東京都立八王子盲学校より女性一名を機能訓練の通所者第一号として迎え入れた。その他、東京都立文京盲学校より女性一名、千葉県立千葉盲学校より男性一名、横浜訓盲学院より男性一名の計

四名を迎えて、五四名でスタートした。その利用内容は施設入所支援と生活介護、施設入所支援と機能訓練、日中活動の機能訓練のみといった様々なものであった。又、法人内の利用者のニーズにも応えて、歩行訓練を中心とした機能訓練を横断的に実施した。利用者の平均年齢は三〇・三歳となり、利用の長期化も見られている。しかし、一人ひとりに対する支援の充実を目指し、生活支援を基本として、生活訓練や行動訓練、そして作業訓練を実施した。この個別支援の充実が目標を達成し、身体機能の維持や生活機能の向上につながった。

二、地域との交流

地域の小学校が「福祉」をテーマに総合的な学習を計画する。ことが恒例となり、東京光の家では様々な体験の場を提供し、視覚障害や社会福祉を学ぶ機会に協力した。又、例年同様に地域との交流行事が行われ、地域の方々の参加やボランティアの協

力が得られた。更に、朗読ボランティアや外出行事のヘルパーなどの協力も得られ、地域との関係が深まっている。

三、職員研修の充実

盲重複障害者の支援においては、職員の資質と専門性は欠かせないものである。今年度も自閉症・てんかん・感覚統合・レクリエーション講習会などの研修会に参加し、幅広い知識を得ることができた。その内容は、内部研修で共有し、利用者支援に生かすことが出来た。

四、保護者との繋がりが

五月には、重要事項説明書の報告や利用契約の更新及び個別支援計画の説明を実施し、保護者との個別面接を設けることで、要望を聞くことができた。八月と一二月には、個人情報情報の使用目的について報告し、支援状況の報告を書面にて行い、保護者の同意を得ることが出来た。

五、その他

今年度は、老朽化する給排水管取り換え工事を大規模修繕と

して、東京都の補助を受けて着工することが出来た。又、全国各地の盲学校や民生委員の見学や福祉系の大学・専門学校の実習生などの受け入れも積極的に行った。

指定・障害者支援施設

光の家栄光園

就労支援を生活の中心として働くことの尊さと喜びを知るとともに利用者の自立と社会活動への参加を目標に支援してきた。昨年新事業体系に移行したが、当初は日中活動の職員数の減少等、戸惑いもあったが徐々に改善され現在では、移行前より日中活動の職員数が上回るまでになった。また、通所者への対応として、地域支援係を設けてさまざまな問題について相談支援をする体制を作った。

一、利用者支援

平成二一年度は入所者が六一名、通所者が一七名の計七八名でスタートした。

新事業体系に移行したこと
でサービスを利用する仕組みが
改まり、新生園で行っている機
能訓練を利用できるようになり、
歩行訓練を受けて活動範囲を広
げたいと希望する利用者に対し
て、しっかりと歩行訓練を实
施することができるようになっ
た。支援の幅が広がった。

就労支援は、売上げが四一〇
〇万円を超え、目標額の三七五
〇万円を大きく上回ることがで
きた。選挙公報の大口注文を始
めとする点字出版関連と各種製
品が順調だったことによる。

二、地域との交流

恒例の地域との交流行事や正
秋バンド、栄光園の「シヨップ
アガベ」の営業等、さまざま
機会を通して地域の人々と自然
なつながりを持つことができた。

三、職員研修の充実

専門性の向上を目指し、内
部研修の充実に力を入れてきた。
また一四の外部研修に職員を派
遣し、多くの刺激を受けた。
四、保護者との繋がり

利用者の生活、施設の状況
を家族に知っていたら、目的で
「栄光園便り」「ミニ通信」を計
三回送り、年二回の保護者会を
開催し施設の状況報告や意見交
換を行った。

救護施設

光の家神愛園

光の家神愛園の入所者は、加
齢による機能低下で生活の色々
な場面で支援を必要とする高齢
の盲人や、視覚障害に加え、知
的障害、精神障害等他の障害を
併せ持つ盲重複障害者、更には
視覚障害に加え、アルコール依
存症や難病により、日々の生活
で、きめ細かなサポートを必要
とする者等、多岐に亘る。

そのような利用者にとつて、
施設が憩いの家となり、生き甲
斐ある生活が送れるよう努めて
きた。

一、利用者支援

八〇名でスタートした平成
二二年度は年度途中で五名の利

用者が天に召された。その内
の一名は東京光の家が杉並区に
あった頃から入所されていた方
で、末期癌のため、主治医から
は入院を勧められたが、「最後まで
で光の家で過ごしたい」という
本人の強い希望もあり、主治医、
施設の嘱託医の協力も得て、本
人の希望を叶えることが出来た。

一方で同数の五名の新規利用
者を受け入れる事が出来た。

二、地域との交流

今年度も多くのボランティア
の協力により、神愛園の活動は
支えられ、感謝である。特に夏
祭りや正秋バンドの活動では多
くの地域の皆様と交流する事が
出来た。

三、職員研修の充実

全国救護施設協議会や関東地
区救護施設協議会の研修会を中
心に、多くの外部研修に積極的
に職員を派遣するとともに、セ
クシオン別に課題を持って内部
研修を行う等、今年度はより実
践力を高める意図を持って、職
員の資質向上を図った。

四、保護者との繋がり
八月、二月に保護者会を開
催した。又、年二回の施設便り
に加え、写真入りのお便りを今
年も全保護者に送った。

盲人ホーム

光の家鍼灸 マッサージホーム

盲人ホームの目的は「あんま
師、鍼師、または灸師免許を有
する視覚障害者であつて、自営
または雇用されることの困難な
者に利用させ、必要な技術等の
指導を行い、その自立更生をは
かる」となっている。

平成二二年度は男性三名、女
性四名が施術業務に従事した。
施術実績は、鍼担当者が退所し
たため鍼の件数が大幅に減少
し、マッサージと合わせても
三四三五件（前年度三八一〇
件）となり施術合計金額は減少
した。施術者の資質向上のため、
指導講師に三療の技術及び接客
全般に亘る心得について指導し
て頂いた。